

## 別記様式第 2 号

### 会議の概要報告

会議の名称	佐野市自立支援協議会幹事会
1 開催日時	平成 2 4 年 6 月 2 1 日 ( 木 ) 午後 3 時 3 0 分 ~ 5 時
2 開催場所	佐野市文化会館 2 0 1 会議室
3 委員等の人数	1 6 人
4 出席委員等の人数	1 3 人
5 議題	(1)地域移行・地域定着支援専門部会の発足について (2)地域見守りネットワークについて (3)今後の予定について
6 会議の公開・非公開の区分	公開 一部公開 非公開 一部公開・非公開の理由
7 傍聴者の数	0 人
8 会議資料の名称	地域移行・地域定着支援専門部会の発足について 地域見守りネットワークについて 他 今後の予定
9 会議の概要 (発言の要旨)	(1)について、事務局からの説明、質疑応答を経て承認された。 主な意見 県では地域定着ではなく地域移行だけを行った。看護師が「この人退院できるかも？」と気付くことが仕組みの始まり。地域全体で退院を考える意識づけができた。それを具体化すれば佐野方式ができると期待している。 堀米地区をモデルに選んだ理由は？ 社会資源が多く地域の理解も進んでいる。 病院への移動手段も考慮すると堀米地区が最適。 (2)について、事務局からの説明、質疑応答を経て、幹事会の検討課題として継続協議することが承認された。 主な意見 協力者と取りまとめセンターの距離感を縮め、顔の見える関係づくりと仕組みづくり

	<p>を一緒に考える必要がある。地域の方に関心を持ってもらうため周知方法をどうするか。</p> <p>地域との結びつきは、児童・生徒よりも家族がどう地域と付き合っていくか。地域と家族をつなげる仕組みができるとよい。</p> <p>足利市の学校に通っていると地域との結びつきが希薄になる。高齢者だけでなく障がい者にもネットワークができればありがたい。</p> <p>職場定着は地域の協力と職場の理解がないと難しい。</p> <p>地域や隣人の方に関心を持ってもらう工夫を考える。また相談窓口から振り分けられるシンプルなシステムがあればいい。</p> <p>交流事業を通して地域との関係が希薄になった。いろんなネットワークを張り巡らせられたらいい。</p> <p>声かけや、学校・自宅訪問して一人ひとり大切にしたい。他人にも興味を持てる社会に。</p> <p>親が障がいを受容する事も必要だが、外へ出られる環境づくりも必要。</p> <p>地元の有志で見守りボランティアを行っている。共依存の障がい者世帯や不衛生なアパート暮らしの方に支援ができればいい。</p> <p>(3)については意見なし</p>
10 その他	